

部会での議論について

沿線まちづくりとしての参画について

- 公共交通の潜在需要は十分ある。将来の公共交通を支える若い世代や、日頃公共交通を利用していない人を取り込むことで、利用者が増える可能性は十分にある。
- 「電車・バスで行こう！」キャンペーンは、日頃公共交通を利用しない人が、実際に利用し、その便利さを体感してもらう点で、非常に大事な取り組み
- 城端線・氷見線の新しい車両のデザインをきっかけに、気運醸成を図ることは、日頃利用しない人に「自分ごと」として捉えてもらう点でも非常に良い取り組み

県民の満足度向上、利用促進について

- あいの風とやま鉄道が、「利用促進アンケート」を行い利用者のニーズを把握し、サービス向上に役立てようとしているのは非常に積極的で良い取組み
- ダイヤの改善やパターンダイヤの拡充に加え、到着駅から最終目的地や自宅までを円滑に移動できる二次交通の充実が重要。鉄道事業者として、今後も駅を拠点としたネットワークの充実に取り組みたい。
- 大学生は使い勝手が良く、お得に出かけることができる企画きっぷに非常に敏感なので、検討する際にはぜひ大学生の意見も参考にしてもらいたい。

他分野との連携・協働について

- 地域のモビリティに関して、国の支援、県の支援を活用しながら、戦略の「投資」の観点から各地域で様々な取組みが進んでいる。
- 各地域（自治体）の担当者間で新しいモビリティサービスについてのノウハウや課題について情報共有できる場があれば良いのではないかな。

担い手の確保について

- 担い手の確保についても、様々な取組みが実施されている。人材がどれくらい不足しているのか、取組みによりどのくらい増えたのか、エビデンスがあったほうがいい。

参画を促す取組みについて

- これまで、地域交通戦略では設定した目標を実現する「仕組み」を中心に考えてきたが、戦略の実現には戦術も大事。人が動きたくなる、参画したくなるには、主体となる人の心を動かすマインドセットが必要
- 人の心を動かすには、客観的なデータが必要。データに基づいて、どこでどんな交通が必要なのか、誰が担い手になれるのか、どうやって心を動かすのかを考える必要がある。
また、心を動かすには「言葉」が大事。どのような言葉が人を動かすのかも考える必要がある。

県民参画（利用促進）について

- 普段から公共交通を利用している人の利便性を最優先に考えることが、利用する機会の少ない人や観光で利用する人の利便性向上にもつながるのではないかな。
- 高校生が、将来車を保有しても公共交通に愛着を持ってもらうためにはどうすればよいかを考えることも重要
- 学校行事を開催する際に、保護者に公共交通を利用して来校してもらうよう、PTAと連携することもあると考える。
- 運行本数が少ないデメリットは、駅や周辺施設の快適性を高め、待ち時間を充実させることで補うことができる。

サービス間の連携（MaaS等）について

- 「my route」では、多くの特色のあるデジタルチケットが企画、販売されている。さらに利用を増やすためには、実際の利用シーンをイメージしてもらうための分かりやすいネーミングや、広報媒体の工夫が必要ではないか。
- 各地域のイベント等と連携したチケットはイベントの来場者が利用する可能性が高い。イベント主催者側からもPRしてもらえば、チケットの認知度も向上する。